



【八学光星一東義】延長10回八学光星1死一、二塁、中江大我が中前適時打を打ち、4-3と勝ち越す＝長根

光星 延長競り勝つ

継投駆使、流れ渡さず

八学光星が粘強い試合運びで延長にもつれた戦いを制した。序盤にリードを許しても継投策を駆使して相手の勢いを止め、機転を絡めながら着実に加点し、中盤以降は流れを渡さなかった。十回に決勝打を放った左砲の中江大我は「難しい試合だったが、勝負強い打撃はできたと淡々と語った。

4番中江決勝打

を浴び、記録に表れない守りのミスも絡んで3失点。昨秋の覇者として、苦しい立ち上がりとなった。ただ、二回からマウンドに上がった森優太が最高のパフォーマンスを見せた。持ち前の制球力を武器に、5回1安打3三振、無失点と力投し、打線は二回までに追い付いた。「直球がきえていた。テールボールに手をしたり、詰まったボールをよく投げ込んで、チームに流れを呼び込むことができた」と納

得の表情を浮かべた。四回以降は二塁を踏めていながら打線は、十回に尊厳を見せた。1死一、二塁で打席に立った中江が初球の外角直球をコンバクトに振り抜き、中前に運んだ。「4番の仕事を果たせたかなとホッとした表情。それでも、最終的には安打4点にとどまった攻撃には、ボール球に手をしたり、詰まったボールを呼び込むことができた」と納



2回から2番手としてマウンドに上がり、5回1安打8三振、無失点の力投を見せた八学光星の森優太

勝敗分けた失投悔やむ

○…東義が延長の末、昨秋の青森県王者・八学光星に敗れた。九回から3番手としてマウンドに上がり、十回に勝ち越し打を浴びた齊藤聖央は「初球の直球が甘く入ってしまった」と勝敗を分けた一球を悔やんだ。三回に同点に追い付かれたものの、四回以降は角田楓斗、五十嵐悠

紀、齊藤の継投策で、九回までスコアボードに0を刻み続けた。工藤秀樹監督は「打席の内側に立たれても、内角を強気に突いていた。投手陣はよくやった」とねぎらった。ただ、打線は二回以降、好機で決め手を欠いた。山谷雄斗主将は「低めの球を見極められなかった。投手陣を援護できる打撃を身に付ける」と、夏に向けた課題を挙げた。

青森県 春季高校野球

第4日

きょう決勝 工大一×八学光星

春季青森県高校野球選手権第4日は23日、八戸市長根球場で準決勝が行われ、工大一と八学光星が決勝に進出した。工大一は工大二と対戦。八回に工藤寛大、木村春翔の連続適時打で逆転した。八学光星は東義と対戦。延長十回、中江大我の中前適時打で中盤以降続いた均衡を破り、その裏のピンチをしのいだ。最終日の24日は同会場です位決定戦と決勝が行われる。

(取材班)

きょうの試合	八学光星
▽決勝	工大二東 義(10・00)
▽決勝	工大一八学光星(12・30)

八学光星	1	1	0	0	0	0	0	1	4
東義	3	0	0	0	0	0	0	0	3

(延長10回)

- (八) 小室、森、洗平、横山一伊藤
- (東) 角田、五十嵐、齊藤一後藤
- ▷二塁打 松本、久守 (八)▷捕逸 後藤(東)
- ▷試合時間 2時間21分
- (球審=工藤学、塁審=梅田、谷川、古川幹)

【評】八学光星は延長十回、四球と単打で1死一、二塁とし、中江の中前適時打で勝ち越し。その裏の2死満塁のピンチで、4番手で継投した横山が踏ん張った。東義は初回に3点を奪ったが、二回以降は八学光星の継投の前に好機であと1本が出なかった。